

インストレーション・マニュアル

VISUAL PERFORMANCE® RECTANGLE SPEAKERS



はじめに

このたびは、Sonance Visual Performance® 長方形スピーカーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この新しいスピーカーは、適切に設置されれば、何年にもわたってエンターテインメントをお楽しみいただけます。

箱の内容

ビジュアル・パフォーマンスインウォール・スピーカー・ボックスには、ビジュアル・パフォーマンス・スピーカー（2台）、塗装可能グリル（2個）、取り付け用カットアウト・テンプレート（2個）が含まれています。

注：SST/SURスピーカーボックスの内容物には、（1）ビジュアル・パフォーマンス・スピーカー、（1）塗装可能グリル、（1）取り付け用カットアウト・テンプレートが含まれます。

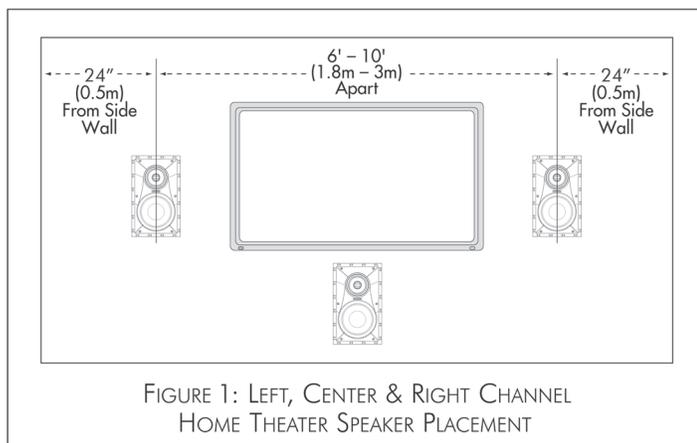
スピーカー配置

ホームシアターのスピーカー配置

L、センター、Rスピーカー

- 左右のスピーカーは、ビデオスクリーンの左右に、1.8m～3m離して、床から0.9m～1.2mの高さに設置します。
- 可能であれば、センタースピーカーを左右のチャンネルスピーカーと同じ高さに設置してください。
- センタースピーカーをビデオスクリーンの上または下に置かなければならない場合は、左右のスピーカーの中央から0.6m以内の高さに設置してください。こうすることで、3つのフロント・チャンネル・スピーカー間の音色の一貫性が保たれます。
- メインのリスニングポジションは、スピーカーから2.4m～3.7m離してください。

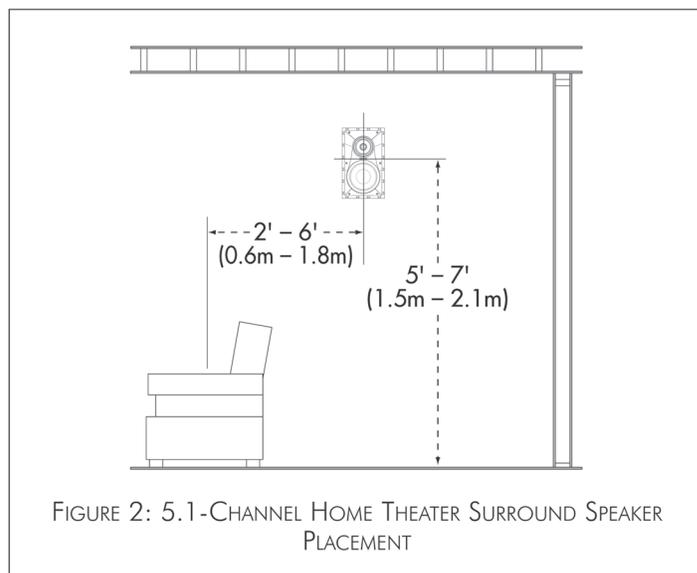
図1を参考にしてください。



サラウンドスピーカー（5.1チャンネルシステム）

サラウンド・チャンネル・スピーカーは、リスニングポジションから0.6m～1.8m後方、床から1.5m～2.1mの側壁に設置します。

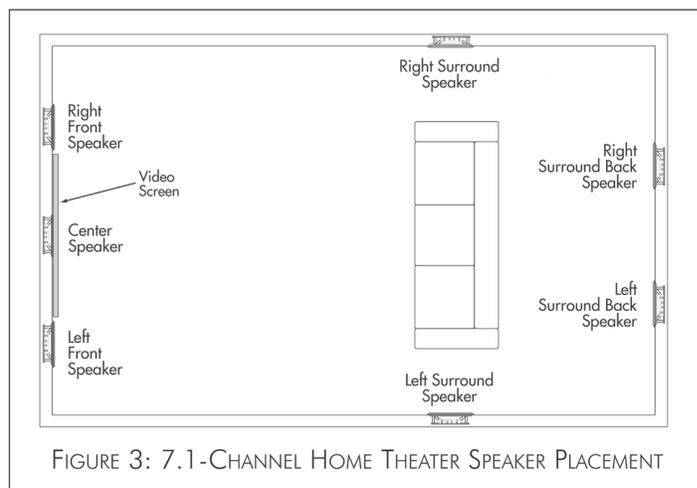
図2を参考にしてください。



サラウンドスピーカー（5.1チャンネルシステム）

- 左右のサラウンドスピーカーは、床から1.5m～2.1mの位置で、リスニングポジションの真横に設置してください。
- サラウンド・バック・スピーカー：床から1.5m～2.1mの位置で、0.9m～1.8m離して、サラウンド・バック・スピーカーを背面の壁に設置します。

図3を参考にしてください。



VISUAL PERFORMANCE® RECTANGLE SPEAKERS

ステレオスピーカーの配置 (2チャンネルシステム)

- 左右のスピーカーは1.8m~3m離して設置し、メインリスニングポジションはできるだけスピーカーの中間に近づけます。
- スピーカーは側壁から0.6m以上離してください。
- メインのリスニングポジションは、スピーカーから1.2m~3m離してください。
- 各スピーカーのミッドレンジ/トゥイーターをメインリスニング・ポジションに直接向けると、ステレオの音場が最大になります。

図4の左右のスピーカーの配置を参考にしてください。

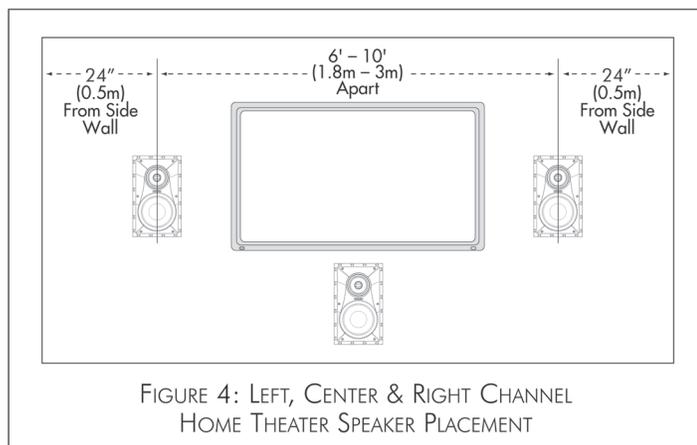


FIGURE 4: LEFT, CENTER & RIGHT CHANNEL HOME THEATER SPEAKER PLACEMENT

取付けの前に

1. スピーカーの位置を決定します (1 および 2 ページの「スピーカーの配置」を参照)
2. スタッドファインダーを使用して障害物調査を行い、スピーカーの妨げとなるスタッド、電線管、パイプ、暖房ダクト、ポケットドア、エアリターンが天井内に無いことを確認してください。障害物について確信が持てない場合は、外形の中央に小さな穴を開け、コートハンガーのワイヤーを挿入し、障害物の可能性がないか触ってみてください。
3. キーホールソーまたは乾式壁用ボードソーを使って取り付け穴を開け、スピーカーワイヤーを取り付け穴からアンプの位置まで引き込みます。

注：スピーカー配線を天井裏に通す前に、各地域の建築基準法をご確認ください。

取り付け

Sonanceビジュアル・パフォーマンス・スピーカーには、既存の天井に直接素早く取り付けられる一体型Roto-Lock®取り付けシステムが採用されています。

1. 各スピーカーのリード線から絶縁体を6mm~12mm剥きます。燃り線をねじるか、露出したワイヤーをハンダで錫メッキします。

注意：「+」と「-」の素線同士が接触するとショートし、アンプを損傷する恐れがあります。

2. スピーカーの端子はバネ式になっています。各端子の上部を押し下げてコネクタを開き、露出したワイヤーをスプリング端子の穴に挿入します。スピーカーのプラス側のバネ端子には赤い点、マイナス側のバネ端子には黒い点が表示されています。アンプの「+」をスピーカーの「+」に、アンプの「-」をスピーカーの「-」に接続したことを再確認します。
3. すべてのRoto-Lockトグルフットが、取り付け穴の境界線内に収まるように収納されていることを確認します。スピーカーを天井の穴に挿入します (図5)。Roto-Lockシステムは天井材厚さ32mm、トグルフットキャップを外すと天井材厚さ48mmに対応します。

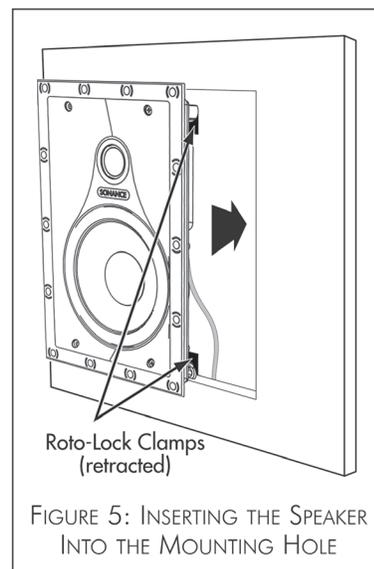


FIGURE 5: INSERTING THE SPEAKER INTO THE MOUNTING HOLE

4. 二重の乾式壁やその他の厚い天井材に取り付ける場合、2ピースのトグルフットの一部を取り外す必要があるかもしれません。小型ドライバーを使用して、2つのロックレバーを静かに外します (図6)

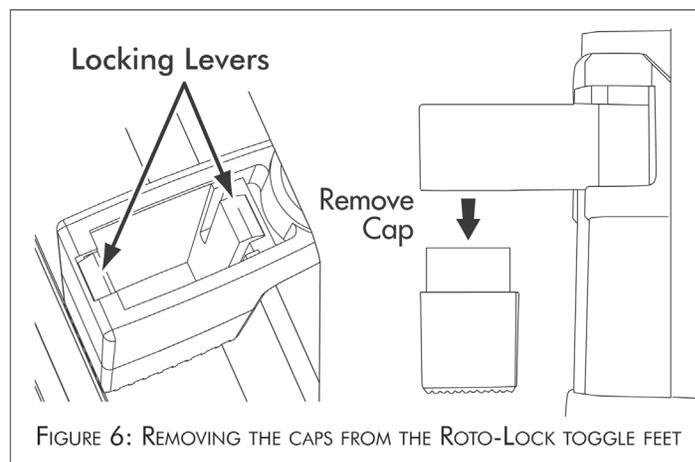


FIGURE 6: REMOVING THE CAPS FROM THE ROTO-LOCK TOGGLE FEET

VISUAL PERFORMANCE® RECTANGLE SPEAKERS

5.スピーカーバツフル前面のネジを締めます。Roto-Lockトグルフットは自動的に所定の位置に回転し、スピーカーのクランプを開始します(図7)

ネジに抵抗を感じれば、スピーカーは正常に固定されています。

大型の長方形スピーカーにはトグルフットが6つ、小型および中型スピーカーには4つあります。

注意：締め付け過ぎないように、常に低トルクでの締付を行ってください。

注：スピーカーのフレームが平らになるように、ROTO-LOCKクランプのテンションを調整してください。これにより、グリルがスピーカーの周囲全体で天井に確実に接触し、適切にフィットするようになります。

6. マイクロトリムグリルは、スピーカーフレームにある数個の小型で強力なマグネットで固定されています。

グリルをスピーカーに当てると、マグネットがグリルをしっかりと固定します。

正しく取り付けられた場合、グリルトリムはスピーカーの全周で壁に接触するはずですが。

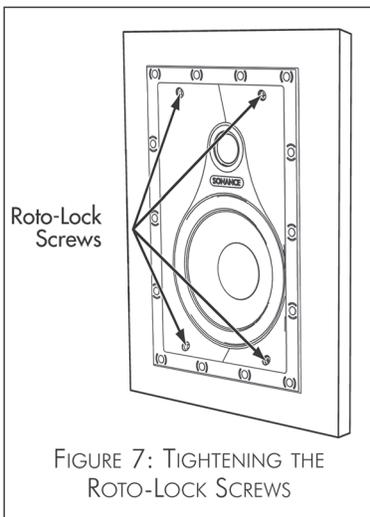
スピーカーの調節

回転式ミッドレンジとツイーター

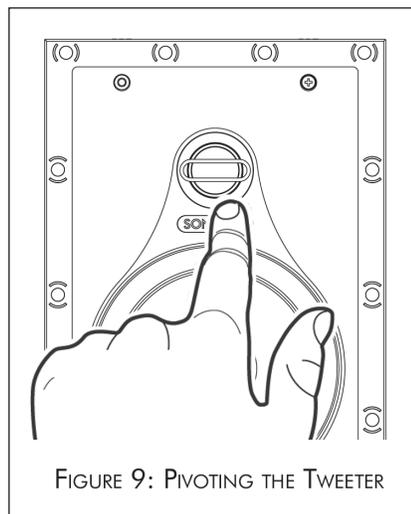
すべてのビジュアルパフォーマンス長方形スピーカーにはピボットツイーターが付いています。VP8モデルにはピボット式ミッドレンジ/ツイーター搭載されています。スピーカーをステレオで使用している場合、またはホームシアターのフロント左/中央/右スピーカーとして使用している場合は、ドライバーをリスニングエリアに向かって直接回転させます。ホームシアターでスピーカーをサラウンドチャンネルスピーカーとして使用している場合は、ドライバーをリスナーから離れた壁または窓に向けます。

ミッドレンジ/ツイーター回転させるには、図8に示すように、ミッドレンジコーンの外側エッジの周りのリングを軽く押します。

ミッドレンジコーン自体に触れたり、圧力をかけたりしないように注意してください。

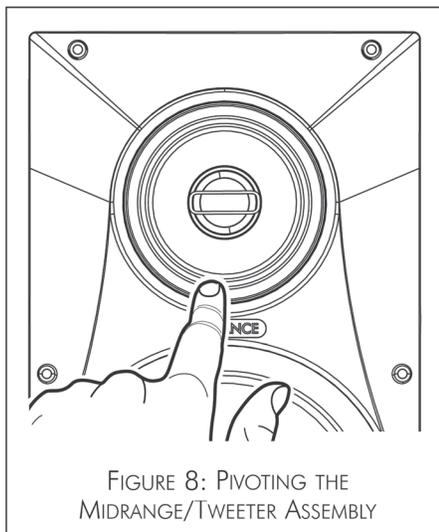
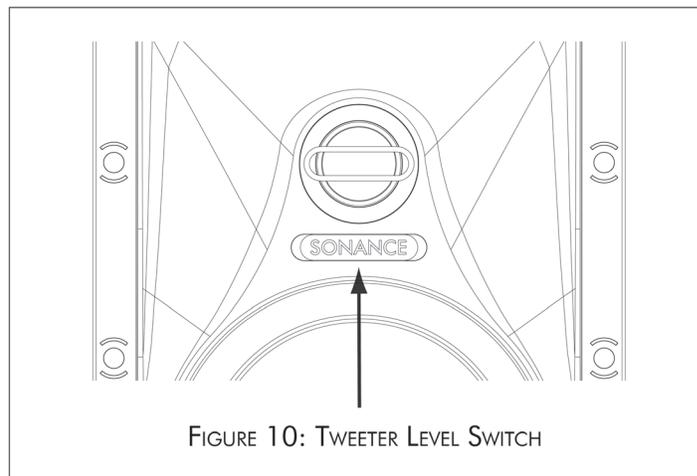


ツイーターを回転させるには、図9に示すように、ツイーターの外側の端の周りのリングに軽い圧力を加えます。ツイーター自体に触れたり、圧力を加えたりしないように注意してください。



VP48、VP68、VP88 ツイーター レベルスイッチ

VP48、VP68、VP88 スピーカーにはツイーターレベルスイッチがあります(図10を参照)。ツイーターからの出力を増やすには、スイッチをスイッチの下にある「+」マークの方向にスライドさせます。ツイーターからの出力を減らすには、スイッチをスイッチの下の「-」マークの方向にスライドさせます。



VISUAL PERFORMANCE® RECTANGLE SPEAKERS

SST/SURのセットアップと接続

・サラウンド (SUR) として使用する

アンプまたはレシーバーからの+と-を、VP SST/SURスピーカーのいずれかの端子に接続します。赤いシールをはがし、スイッチをSURに設定します。

・シングル・ステレオ・テクノロジー (SST) として使用する

左チャンネルの+と-を1対の端子に、右チャンネルの+と-をもう1対の端子に接続します。

スイッチはSSTモードにプリセットされているので、変更しないでください (図 11)。

注意：スイッチをSURモードに設定すると、2組のバイディングポストが接続されます！

スイッチをSURモードに設定した状態で、2つの異なるアンプ・チャンネルをスピーカーに接続すると、アンプにダメージを与える可能性があります。

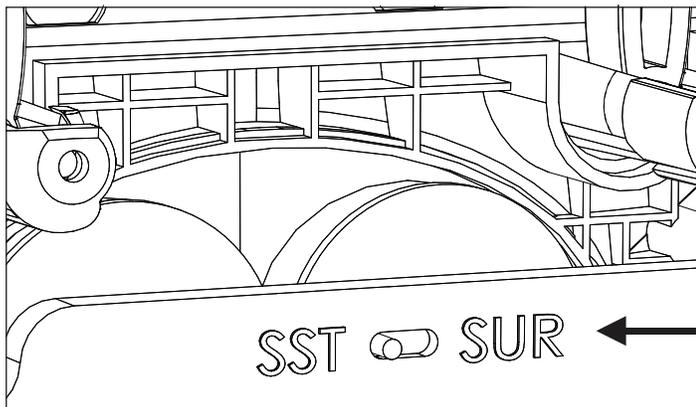


FIGURE 11

